ちょっと出かけるよ　デンマーク

昔むかし、あるところに、貧しいお百姓とおかみさんが住んでいました。
ある日、お百姓は、牛を売りに市場へ出かけていきました。
歩いていくと、羊を連れた男の人に会いました。お百姓は、
「いい羊だなあ」と思いました。男の人は、
「いい牛だなあ」と思いました。そこで、お百姓と男の人は牛と羊を取り替えました。
お百姓が羊を連れて歩いていくと、がちょうを連れた男の人に会いました。お百姓は、
「いいがちょうだなあ」と思いました。男の人は、「いい羊だなあ」と思いました。そこでお百姓と男の人は、羊とがちょうを取り替えました。
お百姓が、がちょうを連れて歩いていくと、壺を持ったおばあさんに会いました。お百姓は「いい壺だなあ」と思いました。そこで、お百姓は、がちょうと壺を取りかえてもらって、壺を抱えて家に帰っていきました。
家に着くと、おかみさんが、
「牛はうまく売れたかい」とたずねました。お百姓は、
「ああ、とってもうまく売れたよ。この壺と取りかえてきたんだ」と答えました。
「壺と取りかえたって。牛の代わりに壺ひとつなんて、えらい損じゃないか」
「でも、取りかえちゃったんだから、しかたがないさ」
お百姓はそういって、壺を棚の上に乗せました。
しばらくすると、棚の上の壺が、
「ちょっと出かけるよ」といいました。おかみさんは、びっくりして、
「どこへいくの」とききました。
「お金持ちのだんなさんのとこだよ」といって、壺はとことこ出かけていきました。
お金持ちのうちに着くと、壺は、のこのこ台所に入っていきました。すると、うちの人が壺を見て、
「おかゆを入れるのにちょうどいいわ」といって、おいしいおかゆをたっぷり壺の中に入れました。すると、壺が、
「じゃあ、出かけるよ」といいました。うちの人はびっくりして、
「まあ、どこへいくの」とききました。
「貧しいお百姓のとこだよ」
壺はそういって、さっさと台所から出ていきました。
壺が帰ってくると、お百姓とおかみさんは大喜びでおかゆを食べました。そして、壺をきれいに洗って、棚の上に乗せました。しばらくすると、また壺がいいました。
「ちょっと出かけるよ」
おかみさんが、
「おや、また出かけるの。どこへいくの」とききました。
「お金持ちのだんなさんのとこだよ」といって、壺はとことこ出かけていきました。

お金持ちのうちに着くと、壺は、またのこのこ台所に入っていきました。うちの人が、
「バターを入れるのにちょうどいいわ」といって、バターをたっぷり壺の中に入れました。すると、壺が、
「じゃあ、出かけるよ」といいました。うちの人はびっくりして、
「どこへいくの」とききました。
「貧しいお百姓のとこだよ」
壺は、さっさと出ていきました。
壺が帰ってくると、お百姓は、バターを取りだし、壺をきれいに洗って棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいいました。
「ちょっと出かけるよ」
「おや、また出かけるの。どこへ行くの」
「お金持ちのだんなさんのとこだよ」
壺は、とことこ出かけていきました。
お金持ちのうちに着くと、壺は、こんどはだんなさんの部屋に入っていきました。だんなさんは、お金を数えているところでした。そして、壺を見ると、
「お金を入れるのにちょうどいい」といって、お金をぜんぶ壺の中に入れました。すると、壺が、
「じゃあ、出かけるよ」といいました。だんなさんは、あわてて、
「いったい、どこへいくんだ」とききました。
「貧しいお百姓のとこだよ」
壺は、さっさと出ていきました。
壺が帰ってくると、お百姓は、お金を取りだし、壺を棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいいました。
「ちょっと出かけるよ」
「おや、また出かけるの。どこへ行くの」
「教会の牧師さんのとこだよ」
壺は、とことこ出かけていきました。
教会に着くと、牧師さんは、お金を数えているところでした。牧師さんは、壺を見ると、
「お金を入れるのにちょうどいい」といって、お金をぜんぶ壺の中に入れました。
「じゃあ、出かけるよ」
「いったい、どこへいくんだ」
「貧しいお百姓のとこだよ」
壺は、さっさと出ていきました。
壺が帰ってくると、お百姓は、お金を取りだし、壺を棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいいました。
「ちょっと出かけるよ」

「おや、また出かけるの。どこへ行くの」
「牧師さんのとこだよ」
壺は、とことこ出かけていきました。
教会に着くと、牧師さんは、小麦粉をはかっているところでした。壺は、ぱっと大きな桝（粉を計る四角の容れ物）に化けました。牧師さんは、桝を見ると、
「小麦粉を計るのにちょうどいい」といって、桝の中に入れました。小麦粉はぜんぶ入ってしまいました。
「じゃあ、出かけるよ」
「いったい、どこへいくんだ」
「貧しいお百姓のとこだよ」
桝は、さっさと出ていきました。
桝が帰ってきて、お百姓が小麦粉を出してしまうと、桝はまた壺にもどりました。お百姓は、壺を棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいいました。
「ちょっと出かけるよ」
「おや、また出かけるの。どこへ行くの」
「牧師さんのとこだよ」
壺は、とことこ出かけていきました。
牧師さんは、かんかんに腹を立てていました。そこで、壺をつかまえると、その上にまたがって、うんこをしました。そのとたん、壺はぱっと大きくなりました。牧師さんは、すぽんと壺の中に落っこちてしまいました。
「じゃあ、出かけるよ」
「おい、出してくれ。どこへいくんだ」と、牧師さんはさけびました。壺はいいました。
「地獄へ行くんだよ」
おしまい

村上郁再話

資料『北欧の民話』山室静著／岩崎美術社

てくれるのではないでしょうか。